

(A)

ワークショップおよび国際委員会等参加報告書

2013年4月19日

報告者	氏名：島田浩二
	所属：東京海洋大学

会合名	・北極科学サミット週間・IASC 海洋分科会 ・Pacific Arctic Group (PAG) 会議	
会合目的	・北極海洋研究の推進 (IASC 海洋分科会) ・太平洋側北極海研究情報交流 (PAG)	
主催団体 (共催の場合並記)	国際北極科学委員会・IASC	
会合年月日	2013年 4月 13日 ~ 4月 16日	
会合場所	会場名称：Dom Polonii 他	国名 (都市名)：ポーランド・クラクウ
出席者 (日本人は所属とともに分かる範囲で記載)	IASC 海洋分科会： IASC 海洋分科会メンバー 日本からの参加者 島田 (海洋大)、井上 (極地研) PAG： 特にメンバーは限定されていない。 日本からの参加者 島田 (海洋大)、菊地 (JAMSTEC)	
会合開催の経緯	年会である	
主要な議論と決定事項	IASC 海洋分科会： Agenda に従って会議を行った。 WG 認定の活動報告と計画について紹介された。 特に報告すべき事項は以下の3点。 (1) ART (Arctic Rapid Transition) 若手研究者主導の IASC/Marine 公認プロジェクトである。2015年の観測航海実施に向けて準備を進めており、ドイツ砕氷船ポーラーシュテルンの公募に応募予定。 DBO は、そのホームページが NOAA 傘下であり、米国プロジェクトなのか、国際プロジェクトなのかの確認を求めたところ、米国プロジェクトでもあり国際プロジェクトでもあるとの説明があった。国際プロジェクトとして実質的に参加しているのは日本のみ (GRENE 生態系課題と JAMSTEC のみである)。また、DBO 主体の米国側から US-EEZ 内のデータは DBO に属するとの解釈が述べられた。 (2) Ocean mixing workshop 海洋混合の重要性が認知されており、IASC/Marine 公認のワークショップを 2013年11月にヘルシ	

(A)

	<p>ンキ（フィンランド）開催することとした。</p> <p>（３）北極鯨ワークショップ</p> <p>北極鯨に関する研究集会（ESSAS がメイン）に対し若干の支援することとした。</p> <p>（４）MOSAiC</p> <p>MOSAiC は大気科学主導の将来計画であるが、海洋分科会から 2 名を派遣することとした（Wieslaw Maslowski、Jinping Chao）。</p> <p>（５）IASC Data Policy</p> <p>標記の件について、当該メンバーからの説明があったが、各国、各機関の Policy の順守が現況では優先であり、理想実現は現時点で困難であるとの意見が多数を占めた。</p> <p>（６）Action Group on Geoscience</p> <p>新しい動きであるが、Geoscience はあまりにも包括的すぎるため、その名称を変更すべきとの意見が複数あった。</p> <p>（７）ICARP3</p> <p>IASC 事務局の Volker より、ICARP3 は既存のプロジェクトの再確認を行うことが中心であると説明された。SAON と ICARP の違いが明瞭ではない、また、公認の pure サイエンス計画は各国の予算獲得に重要であるとの意見が寄せられた。</p> <p>PAG:</p> <p>Agenda に従って会議を行った。</p> <p>（１）2012 年の観測航海報告、2013 年の観測計画が各国よりなされた。菊地氏より、JAMSTEC-DBO 関連の紹介があった（Agenda 1. c）。その他の日本の北極海洋研究について、島田が補足した。</p> <p>（２）Chukchi Borderland/Arctic Basin における観測研究について、島田が説明した（Agenda 3. b）</p> <p>（３）次期 2014-2015 年度の議長選出がなされた（韓国極地研究所 Sung-Ho Kang 氏）。議長による副議長選出はペンディング。</p>
本会合の今後と関連会合	
会合における報告者の役割、発表内容	<p>9. に報告、発言内容を記載。</p> <p>IASC 海洋分科会 :</p> <p>日本の投票権（１票）</p> <p>ROLF GRADINGER 副議長の再任（任期 2 年）。</p> <p>PAG : 投票権など、特になし</p>
報告者ないし日本のコミュニティー・JCAR が留意すべき点、およびアクションを起こすべき事項	<p>従来の気候変動だけでなく、人間開発・エネルギー問題・交通運輸システムに絡む課題が北極研究 GEOTRACES 関連で航海が実現しているケースが目立つ。我が国も、この分野に関し、国際的なチャンネルを有するのが望ましい。</p>
備考（上記以外の事項）	

